

人とまちの諸力融合が

「可能性に満ちた未来」を拓く

日野市長 大坪冬彦



今後、人口減少を伴う高齢化が急速に進み、2025年には団塊世代が一斉に75歳に到達し、2040年には団塊世代ジュニアが65歳を迎え、我が国においては、未だ人類の経験したことのない超少子高齢化社会が到来することが見込まれています。日野市においても他の自治体よりやや遅いペースではありますが、近い将来人口が減少に転じ、高齢化が進行し生産年齢が減少していくことが想定されます。

このような少子高齢化に対応して、未来を拓くために日野市は、「人口バランス・定住化促進戦略」、「産業立地強化・雇用確保戦略」、「ヘルスケア・ウェルネス戦略」の3つの戦略を掲げ、市民の皆様・企業・学生・団体など日野市に関わる全ての皆様の「諸力融合」のもと、まちづくりを推進していきます。

平成25年6月に閣議決定された「第二期教育振興基本計画」は、持続可能で活力ある社会を構築していくために、成熟社会に適合し知識を基盤とした個人の自立、様々な人との協働、新たな価値の創造の三つの理念を実現するための生涯学習社会の構築が必要であるとしています。

こうした中で、日野市においても一人ひとりの学習成果が個人のみならず社会全体に還元され、市民の皆様が生涯を通じて健康で生きがいを持ちながら生活し、また、心の豊かさや潤いを持っていきいきと暮らせるようなまちづくりが急務となっています。

そこで、本計画では、3つの戦略のもと日野市の良さである恵まれた豊富な社会的・自然的資源を活かし、「諸力融合」による多くのつながりの中で、皆様が生涯を通して学び続け、健康で愛着を持って日野市に住み続けられるような仕組みづくりとそのための仕掛けを行いたいと考えています。

具体的には、生涯学習を推進するための視点として「学ぶ」、「つながる」、「行動する」の3つの視点を掲げ、いつでも・どこでも・誰でもが学べる環境の整備・充実を図り、学びを通して多くの新しいつながりとお互いの顔が見えるネットワークを創出します。また、学習により身に付けた「生きる力」や「社会を担う力」を適切に活かしながら、学びによる地域をつなぐコーディネートと人づくりを行い、市民の幸せと誇れるまち「日野」を作ってまいりたいと思います。

この計画が市民の皆様とわがまち日野の「可能性に満ちた未来」を拓く一助となることを願っております。

最後に、本計画の策定を担っていただいた社会教育委員の皆様をはじめ、貴重なご意見や資料をご提供いただいた多くの関係機関・団体の方々に心より感謝を申し上げます。

平成27年3月